

令和3年度 第3回昭島市スポーツ推進計画策定委員会 議事概要

■ 日 時： 令和3年11月15日（月） 午後6時30分～7時20分

■ 場 所： 市役所3階 庁議室

■ 出席者： （敬称略）

＜委 員＞

野口 敏朗、石原 正昭、榎本 至、山下 久也、牧 義明、中島 岩雄、
新井 克己、長谷川 恵二、安藝 進

＜事務局＞

倉片 久美子（生涯学習部長）、吉村 久実（スポーツ振興課長）、
星野 敏明（スポーツ振興係長）、城田 斉（スポーツ振興係）、上田 護（ス
ポーツ振興係）

■ 議 事：

1 開 会

2 議 題

(1) 「昭島市スポーツ推進計画」（素案）について

(2) 「パブリックコメント」の実施について

3 その他

4 閉 会

■ 資 料：

＜事前配布資料＞

資 料 1 「昭島市スポーツ推進計画」（素案）

資 料 2 「昭島市スポーツ推進計画」パブリックコメント実施要領

参考資料 第2回昭島市スポーツ推進計画策定委員会議事録

1 開 会

2 議 題

(1) 「昭島市スポーツ推進計画」(素案)について

事務局より資料 1 を用いて「昭島市スポーツ推進計画」(素案)を説明

○委員長 事務局の説明を受けて何か質問はあるか。

○委 員 1 ページから計画策定が始まり国、東京都、昭島市と流れているが、国や東京都についてはゴシック体で強調する文があるが、昭島市の部分ではゴシック体は数値目標のみとなっている。昭島市の部分が一番重要かと思うので強調をした方がいいと思われる。例えば、「(3) 昭島市の動き」と書かれているが、この部分をゴシック体にしてもよいのではと思う。また、数値目標の中身についても若干の強調をした方がよいと思われる。

次に 6 ページの「6 社会状況の変化と課題について」であるが、先ほど変更があったという説明を受けて分かったが、年齢の 3 区分の人口比率の推計との事だが、人数については記載されているが、構成比率については記載されていない。私は手計算を行ったが、このグラフ内に構成比率の記載をした方が良いと思われる。何故なら、上記文章内で高齢者が今後非常に多くなってくるという文言があるからである。平成 27 年の 65 歳は 24.4%、令和 3 年度は 26.5%、2045 年では 35.34%と構成比率が明記されていた方が非常にわかりやすいのではないと思われる。年齢 3 区分の人口推移と推計のところに人口数だけでは無く構成比率を追加してもらいたい。合わせて、過去の策定委員会を実施した平成 27 年、今年度、次回実施予定の 2045 年の部分だけでも構わないので抜粋し、年齢の 3 区分での比率で表示を行うと非常に目で見て分かりやすくなるのではないと思われる。

○委員長 ゴシック体の表記についてだが、確かに 3 ページの(2)と 4 ページの(3)の色合いも違うが何か意味があるのか。

○事務局 Word の見出し機能を使っており、色を誤って表示してしまっている可能性がある。また、ゴシック体については書体ではなく太字の設定ができていないため、統一できるように修正する。また、4 ページの数値目標については後述ではゴシック体になっているためこちらも検討する。

社会状況の変化と課題についてであるが、比率を追加してしまうと表が小さくなってしまう可能性もある。一度追加したものを作成しどちらにするかを検討する。令和 3 年も入ったことで表が小さくなってしまっている。また、予測値もある程度載せなければならないと考えており、2045 年の表の数字は現状でもかなり小さくなっている。サイズを大きくすることはできるかもしれないが、そこに比率を加えると数字が重なったりしてしまうと考えられる。

○委 員 もう少し分かりやすいグラフ化をしてもらえると良いのではないかと思います

- われる。検討して欲しい。
- 委員長 グラフ内の生産年齢はこれ程幅広くとるものなのか。
- 事務局 比率になっているので幅をずらしてしまうと視覚的に入った時に変わってしまうことから、幅を小さくしてしまうのは良くないと考えている。他のグラフも含めてどのように掲載するのが良いか、内容を変えずに検討する。
- 委 員 計画途中の人口の記載は必要なのか。
- 事務局 前回の調査開始からの推移が見えたほうが良いと思い記載している。
- 委 員 丁寧に作っており良いと思うが、小さくなってしまうのであれば前回推進計画を策定した年、今年、次回予定の年の3つくらいでも極端に言えばよいのではないのかと思われる。毎年あることで追記し辛いことは感じられるが少し工夫してもらいたい。
- 委員長 前回から今年までを毎年、それ以降は5年おきに記載をするのは前回は踏襲しているのか。
- 事務局 そうである。過去のものについては偶数年を省いて奇数年だけ載せる方法もあるかと思う。そこについてはこちらの方で修正を試みる。
- 委 員 議事録の3ページに記載がある私の質問について、前スポーツ推進計画の施策の進捗状況をAからDで評価していることに対し、人材や指導者の育成の評価が低いということを伝えたと思うが、この意見は推進計画に反映がされているのか。
- また、同じようなことだが、人材という意味で、くじらスポーツクラブやスポーツ推進委員などに対する育成はこの計画に反映しているのか。
- 委員長 全体的な内容についての変更はないのか。
- 事務局 内容は大まかには変更していない。素案や議事録の3ページにもあるように評価が低いものが一定数あり、施策の数を増やしていくことで手が届かなくなってしまうことが一つの原因ではないかと考えている。前回委員会時にお示しさせていただいたよう細かい目標設定ではなく幅広い目標設定をしようと考え、今回の素案になっている。しかしながら、その評価の低い部分を蔑ろにする分けではない。今回の施策に乗っているところで足りないところをフォローしていこうと考えている。
- 委員長 委員の3ページの発言について事務局としては今話をした認識を持っているということか。

(2) 「パブリックコメント」の実施について

事務局より資料2を用いてパブリックコメントの実施について説明

- 委員長 議題2に対するご意見があればお願いします。
- 委員 パブリックコメントを実施する場合に市民説明会を行う場合があると思うが本件はどうか。
- 事務局 本件については今のところ実施する予定はない。
- 委員 前回のスポーツ推進計画の時もパブリックコメントを行ったと思うが何件くらいの意見があったのか。
- 事務局 現在資料がないため正確な数字ではないが、2名か4名の方から15の意見があったと記憶している。
- 委員 パブリックコメントは他の施策でもどれくらいの意見があるものなのか。
- 事務局 市にはいろいろな計画があり、計画によって多い少ないがある。多いものでは意見の項目数は100件を超えることもある。市民の関心度にもよると思うが、例えば障がい者の計画だと、障がい者の団体から多くの意見をもろうということは聞いている。また、総合基本計画では90件ほどになる。数年前に行った自殺対策の計画だとご意見は1件もなく、市民説明会にも1名も来なかったとの事。
- 委員 前回計画の広報について多くの議題があったが、このパブリックコメントについても認知度が低いというわけではないのか。
- 事務局 今回、同時期でのパブリックコメントは10件となっており、他の計画と合わせて当計画も持って行ってもらえれば意見も増えるのではと期待している。
- 委員 前回のパブリックコメントに対して、計画への反映度はどうだったのか。
- 事務局 もちろんいただいた意見については事務局で受け止める。前回の計画は事務局で作成したわけではなくコンサルに作ってもらっている。こういう意見をいただいたのでこの様に反映して欲しいと行っている。パブリックコメントをいただいた場合はすべてのご意見に回答をして、それを公表することになっている。ただ、計画に盛り込めないご意見もあるのでそれは施策の中で検討していくことになるかと思われる。ご意見を元に計画を修正することももちろんあり、ご意見の内容によって対応が異なってくる。
- 委員 指摘箇所が5つほどある。1点目は、「2 意見の募集期間について」であるが米印のところにも令和4年の記載があった方がよい。2点目は、「4 意見の提出方法について」であるが、氏名（企業・団体の場合は名称）と記載があるが、様式の記載とは異なっているため統一をした方がよい。3点目は、「提出先について」であるが、生涯学習部スポーツ振興課 宛となっているが、「宛」は妥当なのか。「まで」など別の記載の方が良いので

はないかと思われる。4点目は、「様式の意見の提出先」欄のフアクシミリとアが大きくなっている。最後に5点目として、「様式のご意見」欄についてであるが、「意見及び理由を記載してください」となっているのに対し下の案内では最後に句点がついている。統一した方が良いと思われる。

○委 員 スポーツ推進計画の21ページの基本理念について、「誰でも より楽しく ～ スポーツで繋がる 楽しい昭島 ～」となっているが、これは昭島市総合基本計画と繋がっているのか。

○事務局 今後、昭島市は「楽しい」というのをテーマにして行こうと思っている。このテーマにすることで総合基本計画と繋げている。

○委 員 パブリックコメントについて市民のご意見を伺うことも大事だと思われるが、市民に対してパブリックコメントを実施している事の通知についてはどのように行う予定なのか。

○事務局 各公共施設に配布するのと合わせ、広報あきしまとホームページへ掲載することになる。

○委 員 そこに今回は10件のパブリックコメントがある旨が記載されるということか。

○事務局 そうだ。12月15日号に掲載を予定している。

○委 員 その他の意見になるが、私は昭島市で健康相談を担当している。その立場から、数値目標の事で何か手伝えることがないかを考えている。特に数値目標ともなっている「②週1回以上スポーツをしている成人のスポーツクラブ、サークル・団体への加入率について」である。健康相談に来られる方の中には、昭島市で実施している「健康さわやか教室」が非常に楽しく、運動する習慣にも繋がっているという方がおり、教室の終了後にどうすれば良いか分からないという相談が多く寄せられている。一方で前期後期高齢者がますます元気になっている傾向にある中、70代80代の方がもっと体を動かしたいと相談に来られるケースもある。

私は昭島市民ではないため、上手く案内をすることが難しいところがある。昭島市にはこのようなスポーツクラブがあると紹介が出来るような資料等があれば健康相談の実施場所にも置いていただきたいと考えている。昭島市では健康さわやか教室の他にも弓道や空手、ダンスのエントリーレベルの企画を用意されていることも承知している。そこからスポーツクラブへ案内する方法を市は既に持っているので無いかと思われるので、それを私にも教えていただきたい。健康相談では一人の方に対し40分ほどのコミュニケーションをとる時間しかないが、運動を続けるための案内は出来ると思われるので、情報共有をお願いしたい。指導員は私以外にもう一人いるが大東文化大学の者であり市民ではないため市民を導くテクニックが不足していると考えている。

3 その他

- 委員 委員が言ったことこそが私が気になっていたところと合致する。議題が多くあっても基礎となる部分について話し合いが行われていないように感じることがある。計画等が完成しても、完成後には放置しているような状況が非常に多いと思われる。その点について榎本委員が代弁してくれたと考えている。スポーツを実施するように言っても幼少期からスポーツを実施する感覚がなければまず実施することはないのではないかと考えられる。幼少期にある程度のスポーツ実施の基礎作りを行うような仕組みを考えていかなければ、いくら話し合いを重ねても話し合いだけで終わってしまうのではないかと考えられる。もっと基礎の部分に時間をかけて話し合うべきではないかと思う。
- 委員 若いうちに運動習慣を作ることによって将来的にも運動を実施するという考えに繋がると考えられる。また、どこで運動が出来るのかという情報もあればさらに運動しやすくなるのではと思われる。
- 基礎的な部分についての議論が今は議論出来ていないのではないかと感じるということか。このような施策を策定しても、結果の実施率について追うことは難しい事ではあるのでは無いと思われる。
- 委員 小さい子ども達の面倒も見ているが、運動をする子は幼少期の経験をもとに、ある程度年齢を重ねたときに自分で選択することが多いと思われることから、基礎を大事にした方が良いと思う。
- 委員 学校体育においても生涯スポーツを目指した内容に組み替えられてきていることから、社会にも重要性が認知されていけば、小中高校での体育がより生涯スポーツに繋がるのではないかと考えられる。学校においても自分で生涯やり続けていけるスポーツを見つけていこうという事を進めているので、その辺の繋がりを持っていければ良いのではないかと考えられる。
- 委員 以前にも話をさせていただいたが、くじらスポーツクラブは非常に高齢者が多い。世代を超えてスポーツ出来るように対象者を1歳児からとしているが、会員の方の年齢は殆どが65歳以上となっている。健康寿命と平均寿命についてであるが、健康寿命から男性では7～8年、女性は10年程度が平均寿命と言われており、平均寿命までの間は介護等を受けるようになっている。くじらスポーツクラブでは健康寿命を延ばしていきたいと考えている。健康寿命を延ばすためにはバランスの良い食事と地域との繋がり、そして運動の3つが必要となると言われている。食事についての対応は難しいが、地域との繋がり、そして年代にあったレベルのスポーツの指導を実施していくように方向転換した方が良いのではないかと考えている。しかしながら、運営をしていくためにはある程度の収入も必要となってくるが、安定した運営を実施するまでの会員を集めることが難しい現状となっている。前回、会議でもあったが市民の方は広報をよく見ていると思われる。色々な健康教室やスポーツケア等があると、その後に行っているくじ

らスポーツクラブの教室に流れてくることもある。そのような連携も上手く取っていくことが出来れば、スポーツを続けるきっかけにもなり、健康寿命も延ばすことが出来るのではないかとと思われる。スポーツを始めるきっかけ作りになる良い方法を考えると市の広報が一番では無いかとと思われる。くじらスポーツクラブには現在 160 名程の会員がいるが昨今のコロナ禍の間に 2 人ほど亡くなってしまっている。その方の健康寿命は長く、介護生活を余りすることが無かった点については良かったと思っている。やはり介護生活は本人や周囲の人の負担が非常に大きくなるため、介護機関を短くすることが一番の目的だと思っている。

○委 員 そのためにもこの推進計画を策定して、孤立化する高齢者を減らし、くじらスポーツクラブに共に入るような連帯感を持つ地域社会になればいいと思われる。

○委 員 健康寿命を延ばせば介護保険の減にも繋がるとと思われる。

○委 員 我々を含め地域の方々の知識や意見を集めるためにパブリックコメントを実施していけばよいと思われる。

○事務局 次回は 2 月上旬を予定している。近くなったらまた連絡させていただく。

4 閉 会